

平成記念公園整備事業

受賞機関 岐阜県地域県民部平成記念公園整備室

はじめに

平成記念公園「日本昭和村」は、「人と人、人と自然との共生」を理念に、豊かな自然と共生しながら循環型社会を形成してきた昭和30年代前半までの山里の景観を再現する「日本昭和村」をコンセプトとして整備した。

施設概要

開設年月日：平成15年 4月16日

開設面積：約80ha

主な施設：

- ・正面広場ゾーン
岐阜県特産品売店、道の駅、青空市場
- ・昭和村ゾーン
かいこの家、お茶工房、パン工房、芝居小屋と映像館、炭焼き小屋、やまびこ学校（木工教室）
- ・自然ふれあいゾーン
じゃぶじゃぶ池、果樹園、動物ふれあい広場
- ・野外活動ゾーン
カヌー池、キャンプ場、牧場

役割

東海環状自動車道沿線にある「花フェスタ記念公園」や「セラミックパークMINO」などの県営施設と周辺の観光資源や地場産業等を結びつけて、飛騨・美濃がバランスのとれた交流の場とする「美濃ミユ



お茶工房（茶畑での茶つみと手もみ体験）

ージアム街道」の中心拠点の役割として、また、古き良きものを見直す「温故知新」運動の舞台、県内の農林水産物をはじめとする県産品等の見本市、及び県下の道の駅・観光の総合情報センターとしての役割をもつ複合拠点施設として整備した。

特徴

○環境に配慮した施設整備

工事の支障となる高木を園内に移植して利用し、伐採木もベンチなどの材料のほかチップ化によるマルチング材としての活用も行った。また、園内を流れる水路には自然河川からの工業用水や井戸水を利用し、河床には玉砂利層を設け自然浄化機能を向上させ、ホタルや魚類の生育できる環境を整備した。

○県民協働による公園整備及び運営

県民からいただいた民家や古木を移設して園内に利用するとともに、地元の高齢者や女性を中心とする県民ボランティア組織との協働による体験プログラムの展開も行っている。

○公設民営による管理運営

民間のノウハウを建設及び管理運営において活用し、県の後年度負担をできる限り軽減する仕組みづくりを行った。受託会社は、入園料の範囲内で管理運営を行うこととし、入園料収入が業務の処理費用に達しない場合でも業務の水準を低下させることなく適切に実施することとしている。また、事業利益に対する営業料の支払いも義務づけ、事業収益を県に還元する仕組みづくりも行った。

受賞賛助会員 ㈱市川工務店、鹿島建設㈱岐阜営業所



入場門（正面広場）



縁日仲見世 昔なつかしい商品が並ぶ